

事務事業名		森と湖に親しむ旬間岩手県実行委員会参画事業			☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	02自然豊かな環境の保全と創造			事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成15 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	05環境の保全と共生				
	基本事業名	02港湾・河川環境の保全				
根拠法令					予算科目 会計 款 項 目 事業 01 08 03 01 03	
所属	部課名	都市整備部建設課				
	係 名	業務係	電話	27-3111		
			内線	317		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 国土交通省及び林野庁では、昭和62年度から、国民を対象に森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等の持っている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、毎年7月21日から7月31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めている。 岩手県では森と湖に親しむ旬間岩手県実行委員会を設置し、自然豊かな森と湖に集い、自然環境に親しみ、人と人との交流を深め、安らぎや潤いを感じてもらう機会を提供し、森林やダムについての理解を深めてもらうことを目的として各種行事を開催している。岩手県実行委員会大船渡分科会では国土交通省、林野庁及び岩手県実行委員会のために沿って、平成15年度から平成18年度までは「綾里川ダム湖畔の集い」を開催し、平成19年度からは、供用を開始した鷹生ダムを会場に「五葉湖畔の集い」を開催している。分科会構成員としての市の主な業務は、関係団体等との調整打ち合わせ、会場設営・後片付け、広報紙掲載によるPR、当日のイベント運営などである。事業費は、負担金として支出される。					全体計画(期間限定複数年度のみ)	
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金				
		都道府県支出金				
		地方債				
		その他				
		一般財源				
人件費	事業費計 (A)		0			
	正規職員従事人数					
	延べ業務時間					
	人件費計 (B)		0			
		トータルコスト(A) + (B)		0		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 8月1日に「第4回五葉湖畔の集い」(グラウンドゴルフ、木工教室、森の工作館、ポート体験、ダム施設見学、気仙スギ積み木競争、気仙スギ丸太切り競争、ワタアメ、豚汁サービス)を開催した。 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 7月下旬に「第5回五葉湖畔の集い」を開催する。		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
		名称	
		単位	
		ア	打ち合わせ参加回数
		回	
イ			
ウ			
対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 「五葉湖畔の集い」来訪者		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
		名称	
		単位	
		カ	「五葉湖畔の集い」来訪者数
		人	
キ			
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) (五葉湖畔の集い来訪者に)ダムの社会的機能(多目的の中でも特に水道水確保)を理解してもらう。		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	
		単位	
		サ	ダム展示室見学者数
		人	
シ			
ス			
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 環境負荷を軽減し、公共用水域の水質を保全する。			

(2) 総事業費・指標等の推移

		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
		単位						
投入量	事業費	財源内訳						
		国庫支出金	千 円					
		都道府県支出金	千 円					
		地方債	千 円					
		その他	千 円					
	人件費	一般財源	千 円	50	50	50	40	40
		事業費計 (A)	千 円	50	50	50	40	40
		正規職員従事人数	人	20	20	24	18	19
		延べ業務時間	時 間	170	170	192	170	170
		人件費計 (B)	千 円	680	680	768	680	680
トータルコスト(A) + (B)		千 円	730	730	818	720	720	
活動指標	ア	回	2	5	13	6	6	
	イ							
	ウ							
対象指標	カ	人	160	200	170	251	309	
	キ							
	ク							
成果指標	サ	人	50	50	50	75	92	
	シ							
	ス							

事務事業ID	0682	事務事業名	森と湖に親しむ旬間岩手県実行委員会参画事業
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等 この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 平成12年に綾里川ダムが完成したことによる。また、「森と湖の旬間」は昭和62年度から定められている。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 平成15年度から平成18年度までは「綾里川ダム湖畔の集い」を開催し、平成19年度からは、供用を開始した鷹生ダムを会場に「五葉湖畔の集い」を開催している。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 自然豊かな森と湖に集い、自然環境に親しみ、人と人との交流を深め、安らぎや潤いを感じてもらう機会を提供し、森林やダムについての理解を深めてもらうための事業は、自然豊かな環境の保全と創造につながっている。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 この事業を実施することにより、ダムの社会的機能(多目的の中でも特に水道水確保)の周知をすることができるので妥当である。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 「五葉湖畔の集い」は来訪者を対象に、ダムの社会的機能等を理解してもらうために開催しているので適切である。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 五葉湖畔の集いは年々来場者が増加してきており、内容の充実と周知方法の工夫により、23年度はさらに成果の向上が見込める。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ダムの社会的機能(多目的の中でも特に水道水確保)を理解してもらう場が少なくなる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 他に類似事業がない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 実行委員会で決定された大船渡市の負担金であり、市単独の判断で削減できない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 実行委員会大船渡分科会の事務局は県(大船渡土木センター)であり、市では最低限の業務を担っているため削減余地はない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 「五葉湖畔の集い」には誰でも参加できるし、負担金は県と市で支出しているため、公平・公正である。

事務事業ID	0682	事務事業名	森と湖に親しむ旬間岩手県実行委員会参画事業
--------	------	-------	-----------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 早めに地元地域公民館や関係団体と調整し、地元住民が参加しやすい体制を整えることが重要である。また、イベントの周知方法も工夫が必要である。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) イベントの内容や周知方法の検討により、参加者及び来訪者の拡大が図れる。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 実行委員会でのイベント内容等の精査。																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者																							
(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由									
目的妥当性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☐ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容)		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
--